Front Line フロント・ライン

閑話独言

子育てするなら山形

NPO法人やまがた育児サークルランド
代表　野口 比呂美氏

七日町1丁目1番地。NPO法人やまがた育児サークルランドが運営する「子育てランドあ～べ」の新しい住所です。中心商店街のどまん中にあり、しかも通りに面した１階。“進化する子育てステーション”をめざしてスタッフ、ボランティア一同新たな気持ちで張り切っています。

「あ～べ」は2002年６月、七日町２丁目のナナ・ビーンズ５階に開館しました。「冬場や悪天候のときでも子どもを連れていく場所がほしい」、「少しの時間でよいから預けられる所があれば」、「悩み事を気軽に相談したい」、「託児付きで学ぶことができる所があれば」といったお母さんたちの声によって誕生しました。

心掛けているのは“利用者ファースト”の柔軟な運営です。「子育て講座」、「保健師相談」、「お誕生会」、「絵本の読み聞かせ」のほか卒乳や歯磨き等子育てをテーマにした話し合い、子育て仲間ができる「ベビープログラム」、手作り講座など利用者のニーズに合わせて企画しています。

子育て支援とともに力を入れているのはお母さん方の再就職です。今でこそ少子化や労働力の減少を背景に国、地方自治体、企業は様々な支援を行っていますが、開館当初から「子育て期を女性の職業生活のブランクにしたくない」という強い願いがありました。パソコン講座や、再就職を支援する「マザーズジョブサポート山形」のコンシェルジュによる相談会を開催しています。

振り返ってみますと、山形市内の子育てサークルが横のつながりを持ち、情報交換、調査提言活動に積極的に参画しようとＮＰＯ法人を立ち上げたのは、少子化が顕著な社会問題となった1990年代後半で、子育て支援という言葉がまだ一般的ではない時代でした。国や県の支援策が現実に沿っているのかどうかを私たちの身近な問題として考え、そうした声や意見を市のまちづくり会議などで提案し今日に至っています。

開館以来利用者は延べ50万人を超えました。中心市街地にあ～べがある意義は大きいと思います。「あ～べ」を先例として各地の商店街に子育て支援施設が作られるようにもなりました。「おやこ広場」、「託児ルーム」、「研修室」は元気な声があふれています。ひろばに来ることのできないお母さんのために、先輩ママの家庭訪問ボランティアを始めました。自分たちが必要だと思ってやってきたことが少子化対策や、さらには東日本大震災で避難生活されている福島のお母さんの支援にもつながりました。

「あ～べ」の由来は山形弁の「あべ」(Let's go)。街なかコミュニティ機能型交流拠点「N－GATE（エヌゲート）」に入居しています。その名の通り、親子連れや若い世代がここを入り口に、誘い合ってまちなかに来て、商店街に親しんだり、まちづくりにかかわっていくようなそんな広場にしたいですね。

今月の表紙　「山形市第二公園」(十日町)

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」(事務局・㈱大風印刷)提供。